

レガシーマイグレーションの進め方

- メインフレームの正しい捨て方 -

アブストラクト

1. 研究の背景

団塊の世代が定年のピークを迎え自社システムを熟知したエンジニアがいなくなる『2007年問題』を間近に控え、レガシーマイグレーションが注目されている。長年の運用により肥大・複雑化したシステムを抱える企業は多く、多様でかつ移り変わりの早い経営環境に対応する上でも、オープンシステムへの転換を検討する必要が出てきた。

しかし、レガシーシステムは24時間365日の稼働が求められる基幹システムとなっている場合が多く、新システムへの移行には万全を期さなくてはならない。

そこで、本分科会においては、レガシーマイグレーションを実施する上での不安要素を払拭すべく研究を実施した。

2. 研究の目的と進め方

現在、多くの企業がレガシーマイグレーションの必要性を感じている。しかし、多くの不安要素からその取り組みを躊躇している。当分科会では『不安要素 = 障害要因』を『信頼性』『移行』『運用業務』の観点から洗い上げ、その障害要因の解決策を手引きとしてまとめた。また、ベンダあるいは実際にマイグレーションを実施した企業へのヒアリングから得た具体的な問題解決の手順・方法を加え、レガシーマイグレーション実践のためのガイドラインを作成した。

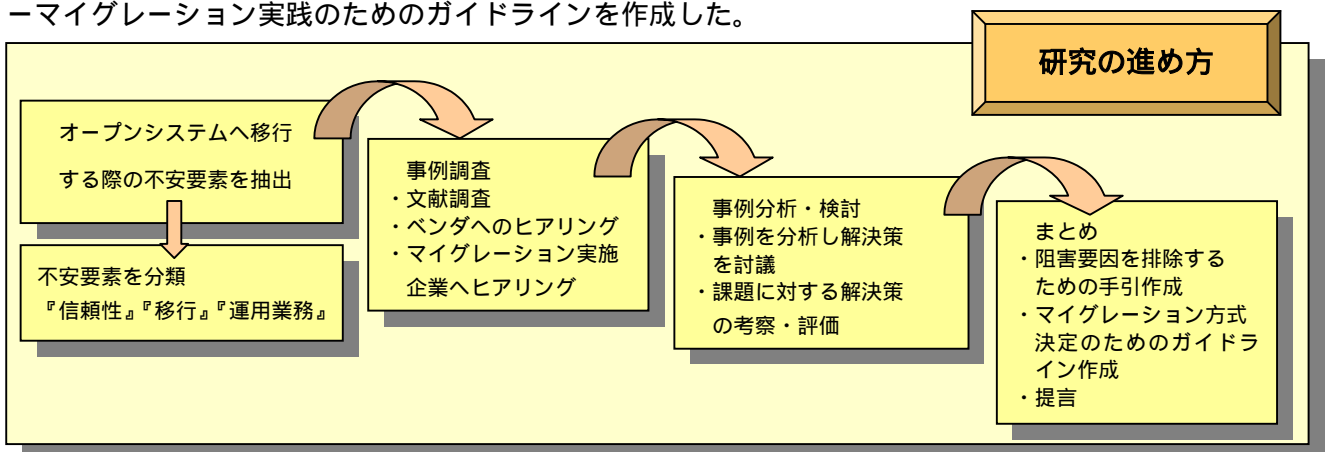


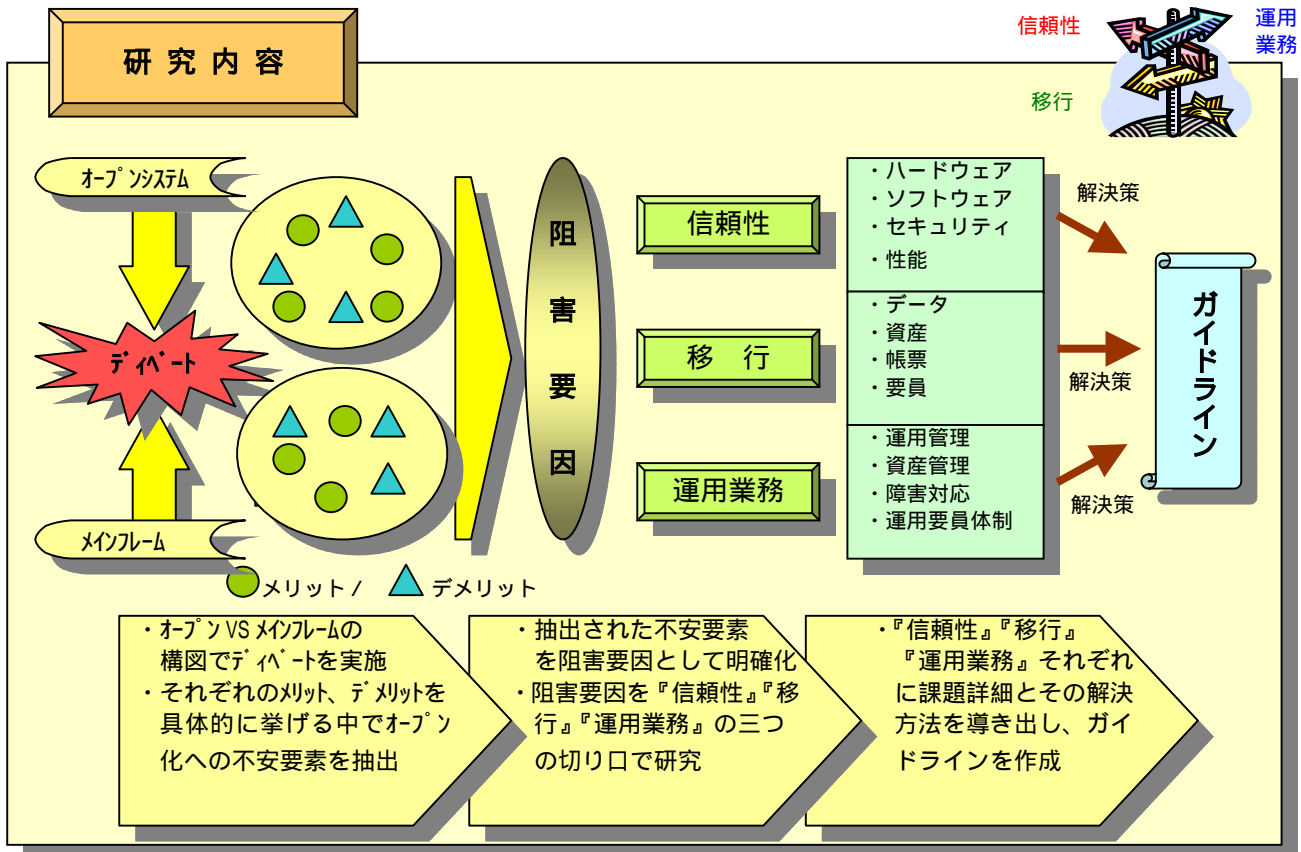
図1 研究の進め方

3. 研究内容

レガシーマイグレーションを行う際の不安要素を抽出するため「オープン VS メインフレーム」という形でディベートを行い、それぞれのメリット・デメリットを明らかにする一方、オープン化における不安要素を『信頼性』『移行』『運用業務』に分類した。

『信頼性』における不安要素については、『ハードウェア』、『ソフトウェア』、『セキュリティ』、『性能』の4つに分類・整理し、オープンシステムではどのように実現可能か、最新の技術動向を踏まえながら考察した。『移行』については、さらに詳細な課題に分類し、その項目ごとに問題点とその解決方法を調査した。『運用業務』については『運用管理』、『資産管理』、『障害対応』、『運用要員・体制』の4つの側面から、『障害要因』および『解決方法』を明確化し、現状にこだわることなくどのような方法をとればよいのかという検討を行った。

以上の障害要因と解決方法を踏まえ、レガシーマイグレーションを実施する際に考慮する点や注意する点について、ガイドラインという形でまとめた。



4. 評価・提言

研究結果を踏まえ、レガシーマイグレーションの実施にあたり『経営層』『抵抗勢力』『ベンダ』への意見を次のとおり提言する。

抵抗勢力への提言

メインフレーム担当者は今後もその知識を生かし活躍できる！
度重なる機能追加・仕様変更はさらなる複雑化を招くだけ！
移り変わりが激しい今日の経営シーンでは現状維持は『後退』に他ならない！

経営層への提言

レガシーマイグレーションはシステム部門だけではなく企業全体の問題！
トップダウンで社内意思統一を！
TCO 削減効果は長い目で見て！

ベンダへの提言

トータルソリューションの提案を！
レガシーマイグレーションは新たな信頼関係構築のチャンス！

図 3 『経営層』『抵抗勢力』『ベンダ』への提言

レガシーマイグレーションの実施の前に立ち塞がるすべての阻害要因には、何らかの解決策が存在することが判明した。また、実施にあたっていくつかの注意点も明らかになった。しかし、具体的な作業に入ればさらに様々な障害や問題が発生する可能性もある。レガシーマイグレーション、すなわちメインフレームを捨て、システムのオープン化を図るということは、未開の大海に船出することに他ならない。荒波を越え新天地に到達するためにはマイグレーションを実施する我々自身が起こりうる問題・課題に向き合う柔軟な適応力と、決してあきらめない実現に向けた強い意志を持たなければならない。